

東京社保協ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

中央社保協第62回総会



7月4日、中央社保協第62回全国総会が東京労働会館で開催され、全国から29都道府県社保協から50人、16中央団体から27人、事務局4人など83人が出席しました。

開会あいさつに立った住江代表委員は、「政府がこれまで社会保障の削減、国民からの搾取・収奪を進めてきたのは許しがたい。骨太方針2018でさらに国民負担増、社会保障削減をさらに進めようとしている」と批判し、「大企業の内部留保を活用し所得再分配を行い、社会保障を充実させる運動」を呼びかけました。

記念講演では、立正大学法学部客員教授・税理士の浦野広明さんが「社会保障予算の確保と税制改革」と題して講演しました。

山口事務局長が、2018年度運動方針案を提案し、この間の情勢を踏まえ、今後の運動の中心

課題として、「社会保障は国の責任で」「9条を守り、さらに25条を活かす」ことを、改めて広範に広げていくことを呼びかけました。また、9月6日から滋賀県で開催される中央社保学校の成功にむけての訴えが行われました。

討論では、中央団体・地域社保協から29人が各団体・地域の取り組みについて発言し、東京からは、寺川事務局長が東京における国保の取り組みについて報告しました。

総会は、2018年度運動方針、2017年度決算・2018年度予算、新役員体制、総会アピールなどを満場一致で確認しました。最後に、閉会あいさつを大西事務局次長（全労連）が行いました。なお、中央社保協の東京からの役員として寺川事務局長が代表委員・相川事務局次長が運営委員として再選され、新たに、窪田事務局次長が運営委員として選出されました。

巣鴨地蔵通り4の日宣伝行動



7月14日、中央社保協・東京社保協が共催する「4の日」宣伝行動を、巣鴨地蔵通り商店街入口で11時～13時の2時間行いました。

照りつける太陽と猛暑の中、全体で48人、内訳は東京社保協32人（東京土建25人）、中央社保協16人が参加して署名・宣伝行動を行い、併せて、「西日本水害被災地支援募金」にも取り組みました。

大変暑い中での行動でしたが、被災地支援募金は10,706円の協力が寄せられ、募金の中にはお地蔵さんへと集めた小銭が入った袋に「被災地へ」と書かれた募金も寄せられました。



この行動では、土建からの参加者が1人で31筆集める大奮闘を含め署名82筆、署名ハガキ付きティッシュ6500枚を配布し、3人の年金相談がありました。暑い中の参加、大変ご苦労さまでした。

各地域・団体の取り組み

渋谷社保協



渋谷社保協は6月22日、なんでも相談会を渋谷駅前モヤイ像前で開催し、7団体10人が参加し、4件（法律2、生活相談2）の相談が寄せられました。

相談内容は、「前に生保申請したが、自分と母の所得合計が基準を超えていたので認められなかった。しかし、母が倒れて入院し自分も仕事も収入も無い。こんどこそ生保を受けたい」「派遣会社から介護の仕事を紹介してもらえない。行きたい利用者の所に行かせてもらえず、嫌がらせを受けている」「1月から扶養控除基準が変わったことの相談」などが寄せられました。

区議会請願は否決

6月7日から開催された渋谷区議会に対して、加盟団体から寄せられた「憲法9条改憲はすべきでない」の意見書採択、「必要な人には専門家による介護サービスの保障を」の2つの請願を行いました。

請願に際して、各会派要請と議会傍聴行動に取り組みました。請願は、自民・公明などが、「国が議論すべきことで、地方議会が意見を言うのは僭越だ」、介護問題では、「ボランティアの活用も必要だ」と請願趣旨が全て専門家によるサービスを要求しているような曲解をして反対し、いずれも不採択となりました。

（渋谷社保協ニュースより）

練馬社保協

練馬社保協は6月28日、本田宏先生（NPO



法人医療制度研究会副理事長）を講師に迎え学習講演会を開催し、全体で14団体72人が参加しました。

本田先生の講演では、「なぜ政治や国の制度が改善されないのか、そのルーツは明治維新にある」という興味深い視点で、ユーモアを交えながら学びました。また、大泉生協病院と練馬第二診療所の患者さんの事例をあげて、この間の活動報告も行いました。

講演終了後、参加者から感想文も31枚寄せられ、「こんなに笑いながら学習出来たのは初めて。これからの運動を頑張るパワーをいただきました」「明治維新の事実を知って驚いた」「面白くてわかりやすい」など大好評でした。また、2つの医療機関からの報告については、社会保障制度をめぐって貧困や格差が広がる今、世の中で起きていることを参加者に知ってもらったことは、今後の社会保障運動の意識づけという点において非常に意義のあるものになりました。

国保区役所前宣伝

6月28日の学習講演会で提起した「高すぎる国保料問題」宣伝行動を、7月2日に5団体14人の参加で行いました。

当日は、区役所前で「国保の都道府県化が値上げの一因」「国保料値下げには法定外繰入の拡充が必要」「国庫負担増額を要請するよう区に求める」などについて訴えました。

1時間ほどの宣伝でしたが、チラシを受け取った区民からは「国保料が高すぎて驚いている」という生の声が寄せられ、区民の反応が今まで以上に強く感じ取れる行動となりました。

（東京土建練馬支部より）

北区社保協



北区なんでも相談会実行委員会は6月26日、「なんでも相談会」を相談員8人、スタッフ25人で開催し、相談が14件寄せられました。

相談では、母親と2人暮らしの30代の女性で愛の手帳（知的障がい者）を持っている方が、「本人の収入が約9万円、母親の年金約8万円で生計を立てているが、生活が大変なので区に相談に行ったところ、自宅があるということだけ聞いて、満足な相談は受けられずに返された」でした。

真夏の工場で汗びっしょりになって働く、障がい者が支える家庭は本当に大変です。守る会の相談員から、この収入状況は生活保護基準ギリギリかやや上回る状況で、生活保護を受給できないのは、

生活保護基準が低すぎるのが問題です。「一人で悩まないで」と声をかけ、引き続き守る会と協力して対応していくことになりました。

北区は、人口35万人のうち約2万人が外国の方。中でも、中国の方が大半を占めています。

今回相談に来られた方も、0歳児のお母さんで夫のビジネスの関係で突然日本に来たばかりで、予防接種をはじめ何から対応したらいいのかわからないという状態でした。対応した通訳から、スマホの翻訳システムなどを紹介し、北区のホームページにも翻訳システムがあることなどを紹介しました。

次回は、第4火曜日の8月28日の予定です。

（相談会ニュースより）



「社会保障」誌の購読を

「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や
社会保障制度がよくわかる！役に立つ！
学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読（年6回）
3000円（送料別）
1部500円（送料別）
- 申込みは東京社保協へ
TEL03-5395-3165
FAX03-3946-6823
- *ホームページからも注文できます



ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい

東京高齢期運動連絡会は、高齢者をはじめ私たちを取り巻く情勢を正しくつかみ、展望を共有し、東京の各団体・地域で頑張っている一人ひとりの仲間をばげまし、運動を交流しその前進をはかる結節点として、今年も「東京の高齢者のつどい」を開催します。合わせて、11月25・26日に熱海で開催される日本高齢者大会の成功をめざす「東京実行委員会」を5月10日に結成しました。

実行委員会では、「つどい」の名称について、高齢者の集まりよりは高齢期の豊かな生活を求める運動として「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」という名称で開催することになりました。

6月8日の第2回総会で、9月21日に行う全体会の講師として、伊藤千尋氏を確認し、分科会についても、①まちづくり、②女性、③社会保障・25条、④地域包括支援センターのお話し、⑤お墓・葬儀、(全て仮称)の5分科会を行う方向で調整することになりました。合わせて、日本高齢者大会には2日間のべ800人の参加をめざし、各団体・地域にはそれぞれ積極的に目標を決めて参加に取り組むことを呼びかけることになりました。

また、今回は電車での参加が多くなることが予想されますので、東京としてのツアーは、新宿と立川からバス1台で企画することになりました。

(東京高連ニュースより)

「4の日」定例宣伝行動

8月14日は中止します。

- ・ 9月14日(金)12時～13時
巣鴨駅
- ・ 10月14日(日)11時～13時
巣鴨地蔵通り商店街入口

主催:東京社保協・中央社保協

中央社保学校

9月6日(木)13:30～8日(土)
会場:ピアザ淡海ホール(滋賀県)
＜学習講演＞

- ①浜矩子氏(同志社大学院教授)
- ②武内一氏(佛教大学教授)他

主催:中央社保協

第47回東京社保学校

9月17日(祝)10:00～

講師は検討中

会場:けんせつプラザ東京

ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい

日時 9月21日(金)
14:00～16:30

会場 杉並公会堂

講演 伊藤千尋氏
(元朝日新聞記者)
基調報告・文化行事など

主催:東京高齢期運動連絡会